２０２１年度　近江ちいろば会の事業報告

1. 主な取り組み

①法人初の文化祭開催(2021.11.3～11.28)

新型コロナウイルス感染予防のため、従来恒例の法人夏祭りや創立記念祝賀会の開催を見送る中で、法人としては初めての「近江ちいろば会文化祭」を開催することができました。ケアハウスの入居者様や各事業所のご利用者様の絵画や手芸書道など 100 点を超える素晴らしい作品を約 1 ヶ月展示し、入居者様、利用者様職員が共に鑑賞する機会を持つことができた。

②法人内のＤＸ化を推進

訪問系事業所や通所介護事業所では昨年度から「Care　Pallete(ケアパレット)」を導入し記録、請求業務などの業務の効率化をさらに推進した。また、グループホームみなくちみんなの家では「眠り SCAN」を全室導入し、入居者様の安心安全な生活と職員の負担軽減にも繋がった。

また、法人内全職員が LINEWORKS に登録することで、各種情報のタイムリーな受発信、共有化や職員研修に役立てることができた。その他、小口現金のキャッシュレス化や食数管理システムの改善などにも取り組み成果を上げることができた。さらには、本館関係の「ほのぼの」をクラウド化し、在宅ワークに対応することができた。

③地域貢献(利用者支援)活動

・「ふれあいの家おしどり」にて 2021 年 10 月より毎月 1 回「子ども食堂」の運営をスタートした。毎回、約 20 名の参加を頂き、地域住民の皆様の交流の場として貢献できた。

・認知症対応型デイサービス(中央デイサービスセンターしんあい)では、「たこ焼き交流会」「本人ミーティング」介護者(男性介護者)の集い」を定期的に開催し、ご利用者ご家族やご本人、行政関係者、事業所職員を交えて認知症介護についてのご相談や意見交換する機会をもつことができた。

また、ぼだいじデイサービスセンターいこいでは、新型コロナウィルスの感染状況に影響を受けたが、「つどい café」を継続して開催できた。

・ZOOM を活用して、地元の甲西北中学校の吹奏楽部や楽団わいわいの演奏会をケアハウスの入居者様やデイサービス、小規模多機能のご利用者様に鑑賞いただくことができた。また、甲西北中学校のボランティア部の皆さんがグループホームぼだいじの草刈り奉仕や手指消毒台の寄贈を頂いた。

④職員満足度調査を実施

法人職員全員に「職員満足度調査」を実施した。結果として職員の 6 割強が法人の運営等について「満足」、「どちらともいえない」と回答した職員を加えると概ね 9 割以上となっていた。一方で改善すべき課題も明らかになり、今後はその改善策を講じていくこととなる。

⑤人材育成・研修

・グロービス経営大学院(単科生)を 4 名の職員が受講し、「クリティカルシンキング」を学び、事業運営に役立てることができた。

・管理者研修及び主任研修を開催し、榊原　宏昌氏による「リーダーシップと強み／チームワークと人材育成」と題してグループワークを中心とした学びの機会となった。

・法人として推進している「ノーリフティングケア」は、主にぼだいじデイサービスセンター虹、グループホームぼだいじ、小規模多機能ぼだいじみんなの家をモデル事業所として推進委員が中心となって職員への実技研修(介護道場)などを開催するなど職員への普及をはかることができた。

⑥法人ブランディング力

・滋賀県「しがけあプロジェクト」Web サイトにて当法人のグループホームぼだいじ並びにぼだいじデイサービスセンターいこいの施設内の情景や職員と利用者様との関りなどを紹介いただいた。また、中央デイサービスしんあいの管理者の日常の仕事ぶりやプライベート面なども取り上げて頂き、介護の魅力発信とともに法人のブランド力を高めることができた。

⑦外国人雇用

・2 年前から介護福祉養成学校に通学し、アルバイトにて就労していた外国人留学生 2 名が無事卒業し、介護福祉士の資格取得とともにフルタイムにて勤務する事となった。また、新たに 2022 年度から同校に入学するミャンマーからの 2 名の留学生も法人が連帯保証人となってアルバイトにて受け入れることが決定した。

⑧新規事業計画

・甲賀市からの公募にあたり「小規模多機能型居宅介護事業所」の開設を申請し、認可を受ける。地元自治会との開設説明会の開催や用地買収、建物の基本設計に取り組むことができた。

各事業所からの報告

1)ケアハウス「ピスガこうせい」

・1 年間で 15 名の退居者が発生し、月間平均 48 名と満室をキープすることができなかった。

・生活支援の一環として、キッチンカーや衣類の移動販売の受入れなど新たな買い物の機会を提供することができた。

・職員会議の在り方を見直し、職員のマルチタスク化や価値観の共有を図ることができた。

2)ぼだいじデイサービスセンター虹

・「抱え上げない介護実践者研修」の受講と移乗用リフトを導入しすることでノーリフティングケアの取り組みを進めることができた。

・入浴介助加算Ⅱ、科学的介護加算の算定を開始できた。

3)ぼだいじデイサービスセンターいこい

・湖南市で初めて「有償ボランティア活動」に取り組むことができ、利用者の居場所づくりとやりがいを提供することができた。また、その取り組みを滋賀県社会福祉学会にて訪問看護ステーションの作業療法士と連携して発表することにもつながった。

・近隣に広大な畑を借りることができ、季節の野菜作りに取組めた。

4)中央デイサービスセンターしんあい

・事業所内の環境整備に取り組み、季節を感じて頂けるような壁紙つくりを行った。

・湖南市あんしん相談員活動の一環として、「本人ミーティング」「介護者の集い」「たこ焼きの会」を定期的に開催し、利用者、ご家族のご相談等に応じる機会を持つことができた。

5)ぼだいじ居宅介護支援センター

・地域つなげ隊(主任ケアマネの活動グループ)に参加し、地域資源の情報の共有や課題を整理することができた。

・看護師資格を有する職員が入職し、医療面での相談体制が整った。

6)ぼだいじホームヘルパーステーション

・特定事業所加算の取得と訪問回数の増加により増収増益を図ることができた。

・ＰＴとの連携によりノーリフティングケアを現場に取り入れることができ、職員の腰痛予防や利用者の安心に結び付けることができた。

・ケアパレットが有効に活用され、看護情報も共有することができ業務の効率化が図れた。

7)グループホームぼだいじ

・職員体制も整い、「眠り SCAN」の導入により入居者、職員の安心安全なケアに務められ、業績回復に結び付いた。

・新型コロナウィルス感染を予防対策として、入居者とご家族様とのオンライン面会を継続して実施できた。

・常勤看護師の入職により、医療面が強化され上位加算を算定できた。

8)小規模多機能居宅介護事業所ぼだいじみんなの家

・毎日「泊り」体制を広報することで下期より登録人数も目標達成することができ、前年より増収増益が図れた。

・地域の民生委員からの依頼を受け、小規模多機能についての説明会を開催し、地域との交流が図れた。

・開設以来 10 年が経過し、記念誌を発刊することができた。

9)グループホームみなくちみんなの家

・全室に「眠り SCAN」を導入し、入居者の安全と職員の負担軽減をはかることができた。

・ｉPad の導入により介護ソフトとの連携がスムーズになり業務の効率化が図れた。

10)デイサービスセンターみなくちみんなの家

・法人内の多職種連携により PT・OT とともに機能訓練に取り組むことができた。

・ＡＤＬ維持等加算Ⅱと入浴介助加算Ⅱを算定できた。

11)ケアプランセンターみなくちみんなの家

・地域包括支援センターとの関係性を深めることができた。

・みなくちみんなの家の他事業所(グループホーム、デイサービス)の運営支援を行うことができた。

12)ぼだいじ訪問看護ステーション

・滋賀県社会福祉学会及び認知神経リハビリテーション学会において実践報告を行うことができた。

・ケアパレットの活用が定着し、さらに訪問、記録の効率化が図れた。

・サテライト(草津市)でのご利用者様に健康教室を 2 回開催することができた。

13)デイケアの家おしどり

・「ひとり一人を大切に」というコンセプトをケアで実践したことを評価いただき、前年、計画も上回って過去最高の収入、利益をおさめることができた。

・遊びりテーションを取り入れて利用者様の満足度を高めることができた。

14)ゆめとまの家おしどり

・上半期は厳しい業績で推移したが、園芸療法や「ちょいケア」などのゆめとまの強みを広報することで下期の収入は計画、前年を上回ることができた。

・園芸リハビリを通じて介護職、看護職、リハビリ職との連携が更にはかれた。

15)総合事業ふれあいの家おしどり

・週 2 回の開催においてそれぞれ定員 10 名を達成することができた。

・お便りの発行やブログのアップを継続して行う事ができた。

16)総合事業ホームヘルパーステーション

・営業時間の明確化や提供範囲を限定することをケアマネに訴求し、ご利用者数の増加に結び付いた。

17)厨房

・管理栄養士が他事業所に出向き、栄養講座や栄養相談に応じることができた。

・フードロスや経費削減に給食委員会を通じて積極的に取組むことができた。

18)法人本部

・現金支払からクイックペイによる支払いに切り替えることで小口現金のキャッシュレス化を実施し、精算業務の効率化と出納の正確性を高めることができた。

・外国人雇用の受け皿として、新たに職員寮の建設を行い、3 月には 5 名(外国人 4 名、日本人 1 名)が入寮する運びとなった。

・借入金の繰り上げ返済をおこない、無借金経営を実現できた。

・新型コロナウィルス感染予防対策として補助金を活用し、法人並びに各事業所の感染予防のための衛生用品の備蓄等ハード面の拡充が図れた。